がんばろう
南三陸町
復興第51号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集　千葉伸孝

東日本大震災後の支援への交流の輪広がる　第２弾

３度目の来町！「愛の福袋」の活動支援

富山・広島・福岡・沖縄の女性の会「愛の福袋」が３回目の、仮設生活者支援に南三陸町に来町した。

午前９時前には民宿を出発し、今回で２回目の「のぞみ作業所」へ向かった。訪問までの 20 分の時間を利用し、東地区西工区の災害公営と自己再建の地域を視察に行く。皆さんからは「何時までに全ての住民の再建はなるのですか？」と、仮設生活者の生活の場確保の心配をする。９時 30 分から「のぞみ作業所」の通所生に会い、沖縄の「チンスコウ」などのお菓子と共に、通所生への「愛の福袋」を届ける。作業所には生徒たちの笑顔が溢れた。訪問の７名の方々が寄り添い話しをする。制作する葉書・名刺やタオルなどの、のぞみブランドの商品を各々が買い求めていた。

次に３月末いっぱいで入れなくなる「防災庁舎」の焼香に向かう。今も観光支援の団体は週末にバスで何台も、役場職員や住民が亡くなった場所の慰霊に訪れている。少人数の観光客が来ていた。防災庁舎前での記念写真は当然の事となりつつあり、「南三陸町へ行ってきました！」の報告としての行動は欠かせないようだ。

この後志津川高校仮設に向かい、高校の登校坂から被災地の今と、津波発生時の町が津波で覆われる写真と共に車上から説明をした。震災以前のモアイ像も、被災で残った頭部が学校に設置されている。見学は「終業式」なのでモアイまでは行けなかった。皆さんの話に「モアイ像は私の所にもありますよ。」とメンバーの一人が話し、「私の近くにも！」と、チリのモアイ像が全国にある事を知った。
ここから「旧福祉の里」での高齢者と職員の被災の状況を伝え、津波から命からがら助かった人の話しもした。そして、津波発生時に私がいた所（旭ヶ丘突端）から、津波の猛威が八幡川をさかのぼり、眼下の市街地（現在の商店街）の津波襲来の光景を思い起こしながら話すと、その悲惨な姿に涙ぐむ方もいた。

南三陸町での最大の楽しみの一つに「キラキラ丼」があった。以前に訪れ食べた海鮮丼が忘れられないと、「寿司の弁慶」さんを指名された。この日は平日だったせいかお昼時なのに８人が直ぐに座れた。豪華海鮮丼を案内の御礼にと、ご馳走になった。先輩の店でもあるが、震災後にうにの「キラキラ丼」を食べたが、さすがに寿司ネタの海鮮丼は初めてで美味しく頂いた。さんさん商店街は今年限りで無くなり、今後は志津川市街地の嵩上げの場所、道の駅（ショッピングモール）に移転し商売を続ける。私も南三陸町の食事処として薦めたい店の一つです。南三陸町に来たら思い出造りの為にも、是非に南三陸町の名物「キラキラ丼」をご賞味頂きたい。

買い物は月曜日で商店街の店が数店定休日となっていた。みなさんは「南三陸のワカメは美味しい！」と、三陸産ワカメの爆買いが見られた。泊まった民宿からも買い求めると言う。５月までワカメの収穫が海であるものの、終盤に近づき少しずつ固くなっていく。今は大きくなる「メカブ」の収穫が本番となっている。私は及善さんの笹かまと、雄新堂さんのクルミ入り黒糖パンを買い求めた。笹かまは仙台の知人に、蒸しホヤと塩蔵ワカメと共にお土産とした。

最後に志津川中学校仮設に行く。現在 72 世帯があると自治会長は話す。支援の活動は、所在する県での地区の企業やお店からの、義援の物資を袋に詰めた「愛の福袋活動」です。７人が３組に別れ福袋を届けた。自治会長は住民の居ない仮設も多いと言う。「留守の場合は、玄関に物資を置きます」と告げた。「愛の福袋」の中には支援する方からの「手紙」が入っている。私の同行は今回で３回目となり、最初の福袋の手紙を今も部屋に貼っている。物資もありがたいが手紙は心に通じ嬉しいものである。この日、私も沖縄の会員さんから「手作りお菓子」を頂いた。

南三陸町への心温まる「愛の福袋」、ありがとうございます。町民になり変わり御礼を申し上げます。

長野県飯島町「御柱祭」参加！

飯島町七久保地区御柱山曳き

飯島町の七久保地区の山の中腹から、神社に奉納する御柱を曳く声が聞こえてくる。道なき山道を、大木を 500 名以上の地区の氏子が、みんなで力を合わせて御射山神社まで引く、「山出し」の儀式が執り行なわれた。

一団を先導するのが竹澤会長で、爆竹の気高い音が山の隅々まで伝わる。威勢の良いラッパ隊の音がスタートの合図だ。若者の「木遣りの声」が響き、「みんな力を貸し～、お願いーだ！」と一団に声を掛ける。同時に「エイ！エイ！」と一団となり応え、「よいしょ！よいしょ！」と皆が一斉に御柱を曳く。神社まで七曲の道路を、カーブでは御柱を上手にバランスを取りながら、10m・30m と少しずつ 2 時間余りを掛け、休み休み、一歩一歩前に進む。それを多くの町民が追いながら家族の姿を見守る。伝統を引き継ぎ脈々と続けられ、「子から子へ」、未来へ続く飯島町の祭りだった。

高坂前町長宅に、今年の御柱の元口部分が配置されていた。平成 28 年４月２日の本引きの為、27 年 11 月 28 日に約 75 年生「モミの木」、胸高直径 142 ㎝

高さ 14m の七久保柱が、高坂町長の任期満了前日伐採と記された御柱が、町長宅の玄関に飾られてあった。

「町曳き」では多くの一般の町民も参加し、子ども達が先頭を曳きその中に私たちも加わった。御柱の前で竹澤会長と先導者と、私たち３人が記念写真に収まった。「南三陸町から来たんです！」と話すと、親切丁寧な対応に町と町との交流の「おもいやり」を感じた。飯島町の皆さんありがとうございました。

長野県自治体と南三陸町の交流拡大！

南三陸町は５月６日までに長野県原村と防災協定を結んだ。原村は震災直後から南三陸町の被災者支援を続け、被災者を招待し大震災で疲れた体を癒してもらう活動を毎年続けてきた。また、職員派遣などの支援も受けている。自治体の交流には、人口減への対策でもある。

また、上田市体育協会は、南三陸町の体育協会やスポーツ少年団へ義援金を送り、互いの子供達と役員の交流を深めている。今年は上田市から志津川湾夏まつりに来町してもらい、スポーツ交流と夏まつりを楽しんでもらう企画を、町体育協会は計画している。

原村との災害協定は、地震や津波・豪雨の時に人的・物質的な迅速支援を相互に展開する。現在は 18 年の山形県庄内町、26 年の長崎県南島原市などに続き、長野県原村との協定は５自治体目となる。

南三陸町は 3.11 の大震災で有名になったことで、多くの自治体が「手をさしのべる活動」が続いている。

熊本県 絆 がんばろう 絆 南三陸町

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成28年（2016年）
～ 地元報道より ～

２月の出来事

南三陸町

◇南三陸町は人口減対策総合戦略で、クーポン券や医療費助成計画の施策により、計画最終年度の平成 31 年に、合計特殊出生率を 1.40 以上、転出超過 260 人未満に抑える事を目標にする。

◇南三陸町は医師確保に奨学金制度を継続する。大学入学時に 500 万円以内、月額 25 万円以内とした。また、看護師・薬剤師には免許取得の在学中に月額７万５千円を無利子で貸し付ける。修学後は南三陸病院に勤務する意思が条件としている。

◇南三陸町で在宅高齢者の栄養ケアの重要性を学ぶ「医療フォーラム」が開催され 40 人が参加した。

◇志津川小学校で早稲田大学の陸上現役アスリートが「陸上教室」を開き指導をした。

◇南三陸・気仙沼の水産加工業の宿舎補助で、両市町で 11 件が交付された。南三陸町の県からの決定を受けた業者を対象に、事業費の４分の１（上限 1000 万円）を上乗せ支援する。合わせて最大で４分の３（上限 3000 万円）が補助として受け取れる。

◇南三陸町の「ポータルセンター」が、日本政府観光局の案内所に認定された。観光協会では英語を話せるスタッフの育成に取り組み、外国人旅行者の誘客に力を入れる。

◇南三陸町サケふ化場は、稚魚の放流の目標に届かず、１千万粒にとどまった。海産親魚の活用を図ったが「発眼率」が思わしくなく、遡上サケ数の増に新たな対策が求められている。

◇南三陸町社会福祉協議会は、コープ東北と「フードバンク」の協定を締結した。緊急支援を必要とする町内の生活困難者に、生協から譲り受けた食料品を一時的にセーフティーネットとして活用する。

◇南三陸地区安全運転管理者会が「全日本安全協会長表彰」を受賞した。地域の事故防止に貢献した。

◇南三陸町の高台に整備する「生涯学習センター」の建設にあたり、シンガポール赤十字から４千万円が寄付された。

◇南三陸町は新年度から 10 年の「第２期健康づくり計画」の素案をまとめた。町民から意見を公募し健康増進と食育推進を今後図っていく。今回は町民の 20 歳以上の男女を対象に実施した。

◇南三陸町歌津の仮設商店街「伊里前福幸商店街」が、７日移転再オープンとなった。

◇１月 26・27 日の両日発生した「台湾地震」に、南三陸町は現地赤十字に 100 万円の寄付をした。震災支援の恩返しと、今月末まで公的施設に募金箱を置き、被災地支援を展開する。南三陸病院の建設支援に 20 億を超える多額の支援が台湾よりあった。

■南三陸町は町議会議員の報酬を月額平均 2.8％引き上げる条例改正案を、８日の「臨時議会」に提案する。合併後初の引き上げで月額 23 万円となり、以前より 9300 円のアップとなる。

■議員報酬で臨時議会。「時期尚早」との意見の中で、反対７賛成８で可決となり引上げ。

〔議員報酬引き上げは『妥当』かと、町民から疑問視する声〕

■特別職（町長・副町長・教育長）の給与改定とともに、議員報酬の引き上げとなった。町総務課は人事院勧告の給与改定を受け、３回にわたって消滅してきた。これまでも特別職に準拠し、提案してきた。議案の上提は「慣例」に基づく対応という。

町民は「震災から５年が経ち、今もギリギリの生活の中で、もっと議論をしてほしかった」と話す。

本議会の質疑では、三浦・及川・今野の３氏が反対意見を述べ、菅原・後藤の２氏が賛成意見を述べた（５月１日発行の南三陸町議会だよりにて）。

星議長は、議員報酬や定数に関して、今後は「議会改革特別委員会」で議論していくと話す。

◇１月 18・19 日の低気圧被害が 10 億円となり、被災は養殖ワカメに集中した。

◇南三陸町歌津のまちづくり団体のＮＰＯ「夢未来南三陸」が、復興庁と気仙沼信用金庫の助成を受け、歌津に伝わる伝統食を、子や孫に残すための商品化に取り組んでいる。

◇南三陸町ジュニア綱引き大会が開催され、入小引っぱり隊が優勝し、志小レジェンドが準優勝になった。１チーム 10 人で町内から 14 チームが参加した。

◇75 才以上の後期高齢者の震災被災者の窓口医療費負担の免除が本年度で終了する。南三陸町の後期高齢者の約 2600 人のうち約 350 人が対象となっている。

◇公立高校前期選抜で本吉地方は 181 人が合格した。気仙沼高が 72 人、本吉響高が 32 人、志津川は普通・ビジネスを合せ５人が合格した。

◇南三陸町入谷の農家グループが香辛料や漢方薬などに利用される「当帰（トウキ）」栽培に力を入れ、商品化し新たな入谷の特産にしようと活動している。

◇復興庁が設置した、東北観光アドバイザー会議が 14 日南三陸ホテル観洋で開催され、外国人誘客の提案が次々と出された。

◇南三陸町戸倉の国道 398 号線沿いに「南三陸・海のビジターセンター」の安全祈願祭が 16 日開催された。南三陸や石巻・登米の市町を「フィールドミュージアム」と称し、環境学習の拠点にする。

◇県が募集した本年度の「再生可能エネルギー等省エネルギー大賞」に、南三陸町のバイオガス事業のアミタの取り組みが県優秀賞を受賞した。

◇県が地域の活性化に取り組む団体として、南三陸ホテル観洋が「みやぎおもてなし大賞」で特別奨励賞を受賞した。

◇南三陸町で 28 日、有志が鉄路復旧を求め、実現の会設立への集会を開いた。

◇南三陸町歌津の伊里前集合住宅と戸建ての「災害公営住宅」の整備が追い込みを掛け、完成間近となっている。３階建ての集合住宅２棟（50戸）と、戸建ては２階・平屋と合計 10 戸で構成する。

◇南三陸町は４月から「町民バス」の運行を有料にする。地区内は 200 円で地区をまたぐごとに 100 円が加算される。

◇南三陸町歌津の伊里前地区の嵩上げが始まった。1.4ha を 5.5m の土盛を開始し、来年３月の完成を目指す。新商業施設はイベント広場や駐車場など合計 5300 ㎡を整備する。

◇宮城交通の気仙沼～仙台間の「高速バス」の運行が、運転士不足から仙台～気仙沼・南三陸までの１便ずつが 29 日から減となる。

◇南三陸町は 23 日に移住者意見交換会が開かれ、移住者からは住む場所が足りない・移住したい人は沢山いるなどの、意見があった。空き家などの住宅の確保などが訴えられた。現在歌津峰畑に定住促進住宅が６戸建設され、30 年３月まで家賃半額で入居してる。

◇完成した町営小森ふ化場から、初めての放流が 25 日に八幡川で行われ、20 万匹が復旧後に初放流された。

◇台湾大地震を乗り越え、台南市から修学旅行の高校生 64 人が南三陸町を訪れ、民泊体験などで町民との交流を深めた。住民は、今後は自分たちが恩返しと高校生を歓迎した。

◇南三陸町の防災対策庁舎跡地の立ち入りが４月から禁止となった。２年間の「祈念公園」工事が開始されるためだ。

◇本吉地区の高校入試後期出願で、倍率トップは向洋産経科の 1.33 倍だった。志高は普通 0.19・ビジネス 0.37。４校５学科で定員割れとなった。

◇南三陸町の新年度一般会計予算が総額 558 億となり、前年度と比べて 35 億５千万円（6.8％）増加した。過去２番目の予算規模で、住宅再建が仕上げに向かっている事が要因。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

気仙沼市

◆カツオ漁業者が資源の現状を課題に、釣り・巻き網業者が結集しフォーラムを開催した。最後にカツオ漁存続へ「気仙沼宣言」。

◆気仙沼市は「ふるさと納税」の複数回の納税に対し返礼品は１回と言っていたが、寄付回数に応じて１人何度でも貰えるよう変更する。豊富な品でリピーターを担い、ふるさと納税の増額をねらう。本年度現在で 8197 件・１億 2569 万円となり、昨年の２倍となっている。

◆震災対象者に最大 350 万円を無利子で貸し出す「災害援護資金」の利用者が 28 年度 12 月まで、41 件・１億 400 万円となり、29 年度も資金需要が見込まれ、予算を維持する。

◆気仙沼市の国民健康保険が 30 年度から県に１本化される。市では現在１万 9144 人と、23 年から 9703 人が減った。加入減による負担額の増で市の国保財政は難しくなっている。被加入者は６割が 60・70 代となり、23 年と比べ医療機関の支払いは４千円ほど高い。また、震災後に国保から社保への変更も増加している。

◆気仙沼市で、東北大災害国際研究所の「防災文化講演会」が開催され「古文書や地域の歴史を守り、学ぶことが将来の減災につながる」と締めた。

◆気仙沼市は住宅再建に独自支援を手厚くと、補助上乗せを菅原市長が明らかにした。県議会震災復興委員会と市議会の意見交換の中で語られた。市の想定より申請が少なく、独自支援予算の余裕から。

◆東陵高校は、県剣道選手権大会で４年ぶりに優勝した。優秀選手には６人抜きの磯選手が輝いた。

◆フェンシング男子団体は五輪の出場を逃し、気仙沼出身の千田選手もオリンピック出場は叶わなかった。

◆気仙沼市は４年間で 21cm が隆起し、その分の防潮堤を低くして、10 ヵ所の建設を決めた。

◆新たな気仙沼名物にと、向洋高校生が発案した「酒かすスイーツ」が完成し、12 日から市内の菓子店で販売される。

◆気仙沼市の 28 年度の一般会計の当初予算の市税を 58 億４千万円と計上した。昨年と比べ約４億６千万円の増収で（8.5％）多い。再建が進み担税力が回復しているものの、震災前には届いていない。

◆気仙沼市の「追悼祈念公園」の候補地として、漁火パーク・内湾（陣山）など５ヵ所があがっている。復興が見られる場所をと、来月選定される。

◆気仙沼市の吉田造船鉄工所で、防衛省からの県内初の受注、全長 46.5m、幅 7.8m で軽油 590kl の積載が可能で３億４千万円の建設費。吉田造船の実績は、４社を中心に設立の「みらい造船」に引き継がれる。

◆気仙沼市唐桑の大船渡線ＢＲＴの素通りはもったいないと、唐桑にも「駅」をと求める声が高まっている。観光振興や、利便性のためにも必要と地域は求めている。

◆気仙沼駅前公営住宅（194 戸）の隣に整備する集会所の施設棟（商業スペース）への入所が、今のところ希望がゼロとなっている。施設建設の費用の増加があり、賃料が高騰し出店意向がない。

◆気仙沼市は、企業の本社移転や拡充に、固定資産税の優遇を図る。

◆気仙沼市議会は、本会議での審議や議員活動などにタブレット型端末導入することを決めた。ＩＴ化で効率的にとの、改革だと話す。

◆宮城県議会で気仙沼市出身の守屋県議の質問で、フラットゲイトを導入を求めた事に対し、村井知事は安全性や確実性の面から否定的な姿勢を示した。

気仙沼市は新教育長に、教育委員長の齋藤盛男氏（64）を任命した。市は昨年４月に教育委員会制度を変更した。教育委員会の代表としての教育委員長を一本化し、教育委員長を廃止した。新制度で初めての教育長が任命された。